

鯉淵同窓会兵庫県支部だより(最終号)

鯉淵ひょうごの集い開く



いこいの村はりまの玄関にて

「鯉淵ひょうごの集い」を7月5日、加西市の「いこいの村はりま」で開催しました。出席者は17名で、久しぶりの再会に大いに盛り上がりました。この「鯉淵ひょうごの集い」は、第1部が支部総会、第2部が懇親会という構成で隔年に開催しています。

支部総会では、最初に福井会長が「今回の総会は県支部の改革を皆さんで話し合ってください、よりよい方向に決めていただきたい」と挨拶。次に亡くなられた多くの同窓生の方々への哀悼の意を表するために全員で黙祷を行いました。

まず提出議案の第1号議案では、福井会長から令和5年度、6年度活動報告と収支決算の承認について説明があり、長尾会計監事から監査した結果の報告がありました。出席者からは異議がなく、第1号議案が承認されました。

次に第2号議案では、福井会長から令和7年度からの活動計画並びに収支予算の設定についての提案がありました。

特に令和7年度からの活動計画では、①支部総会の廃止と鯉淵ひょうごの集いの継続、②支部規約の変更、③兵庫県支部だよりの廃刊、④支部会費の廃止、⑤「鯉淵ひょうごの集い」の経費負担について提案

を行い、出席者で話し合った結果、次のような結論になりました。

- (1) 支部総会を廃止するが、会員相互の親睦をはかる「鯉淵ひょうごの集い」は継続的に開催する。ただし、総会を廃止するので、支部活動や収支管理は行わない。
- (2) 平成24年から13年間続けてきた兵庫県支部だよりは、編集責任者の事情で廃刊とするが、今年度は最終号を発行する。
- (3) 支部会費(1,000円)は令和7年度から徴収しない。
- (4) 支部会員による「鯉淵ひょうごの集い」の経費は、参加者の自己負担とする。
- (5) 支部会計は令和7年度中に、会計監事の監査を受けて閉鎖とするが、残金は前会長と前会計監事で協議し適正に処理する。



第3号議案では、支部規約に基づき、福井会長が令和7年度以降の支部役員の選出を提案いたしました。

出席者で話し合った結果、次の支部会員が新しい役員に選出されました。よろしくお願いいたします。

会 長 小森英逸様(31期)

副会長 岡本昭治様(31期)

支部総会の終了後には、懇親会を開き参加者がそれぞれ近況報告をいたしました。学生時代の思い出、趣味のこと、暮らしや健康のこと、農業のことなど、会場のタイムアウトまで笑い声が絶えない楽しいひとときを過ごしました。

最後は、いこいの村はりまの玄関前で

記念の集合写真を撮り、再会を約束して解散いたしました。

支部だよりに 終止符を



今回の支部総会で兵庫県支部だよりの廃刊が決定いたしました。その決定からまもなくして、同窓生の皆様からは「全国同窓会には類をみない画期的な取り組みなのに残念」「毎回の支部だよりを楽しみにしていたのに」「支部だよりのお陰で視野が広まった」「支部だよりの取材で遠くまでお越しいただき感謝」と本当に有り難い言葉をいただきました。

振り返れば、本県が支部だよりの創刊号を発行したのは平成24年1月でした。

発行の動機は、支部活動のマンネリ化に加えて、会員の年齢差、会員意識の希薄化、価値観の違いなどにより、会員同士の親睦・交流をはかる本来の支部活動の目的・意義がなくなりつつあるという危機感からでした。このような支部の状況を見過ごすことができず、支部役員会で組織活動の改革を提案し検討した結果、改革案の一つが支部だよりの発行でした。

最初は支部活動を会員に知らせ、各分野で活動している同窓生を取材し、紹介するという構成で始めました。当初、発行回数は2年に1回程度と考えていましたが、同窓生取材の企画が意外と好評であったため、取材先が多くなり、必然的に発刊回数も増え、ある年は年2回発行したこともありました。

県内の同窓生を取材し、その内容を記載したコーナー「頑張っています、同窓生」、「あの人は今、同窓生紹介」に登場していただいた方は、1期から55期までの支部会員43名でした。取材は田圃、畑、ハウス、牛舎、カフェ、自宅などで行い、様々な質問に気軽に応じていただきました。

鯉淵学園で過ごした学生時代の懐かし

い思い出を特集するために、その執筆を10期の故加藤 整様に依頼したところ、快く引き受けていただきました。第2号から第14号まで、13回にわたり、小出・鞍田両学園長をはじめ、多くの先生方との思い出を寄稿してくださいました。

また、12期の故普光江文江様、19期の出店利彦様からは学園の思い出、23期の大字路子様からは句集の発刊を寄稿していただき、充実した内容の支部だよりになりました。

このように休刊することなく、支部だよりが継続して発行できたのは、同窓生から寄せられた「支部だよりを読んだよ。いつも御苦労様。次が楽しみだよ」という温かい感謝の言葉でありました。

そして、何よりも心の支えになったのは、令和元年に他界された尊敬する10期加藤 整様からの「いつも頑張ってくれて有り難う」という励ましの言葉と、学園の思い出に関する多くの寄稿でした。このように同窓生と加藤 整様からの感謝・激励の言葉と寄稿があったからこそ、第18号まで継続できたと思っています。

今回の最終号で、支部だよりに終止符を打つことになりましたが、同窓生の皆様の多大なご協力、ご支援に衷心より厚く御礼を申しあげます。



編集後記

「始めあるものは必ず終わりあり」という諺がありますが、最終号の原稿を書き終えると、今回で終わりかと思いきや一抹の寂しさを覚えました。県支部の代表として経験したことを私の人生の1ページにしっかりと残しておきたいと思います。本当に長い間、ありがとうございました。

令和7年7月

発行編集責任者

同窓会兵庫県支部 前会長

福井寛行 (26期)